

目次

1	近世東本願寺造営史研究から見える諸課題	木場明志	一
2	——徳川幕府治世下の東本願寺造営——	菊藤明道	一二
3	『妙好人伝』における編者僧純の教説	飯島憲彬	二〇
4	本願寺派能化知空の仏身・仏土観	紅 檉 英 顕	二五
5	親鸞における念仏の真仮について	新 保 哲	三三
6	親鸞の念仏における徳について	貫 名 讓	四〇
7	親鸞の念仏思想における「真実の機」と「方便の機」	山 高 秀 介	四六
8	浄土の開示——「信巻」信楽釈の考察——	龍 口 恭 子	五〇
9	存覚『歩船鈔』と十宗——仏教概論としての構想——	寺 本 亮 晋	五五
10	円珍の『疑問』と『此些疑文』との比較再考——降三世の解釈を中心に——	木 内 堯 大	五九
11	『弘惑袖中策』の成仏論	花 野 充 道	六五
12	『断証決定集』と四重興廃思想	大 鹿 眞 央	七〇
13	覚鑊の教学に見る妄執論	館 隆 志	七四
14	栄西の入滅について	石 原 成 明	七九
15	『正法眼蔵』「陀羅尼」巻にみる道元禪師の理念と作法	清 野 宏 道	八三
16	道元禪師における『法華経』解釈の一考察	西 澤 ま ゆ み	八七
17	道元禪師における伽藍建立の意義	小 田 桐 拓 志	九一
18	正法眼蔵における可謬性の理念——葛藤の巻をめぐる——	杉 浦 道 雄	九五
19	法然における五念門についての一考察	那 須 一 雄	九九
20	法然門下の「往生」理解	戸 田 孝 重	一〇五
21	——特に浄土往生後の菩薩の階位の問題を中心として——	田中実マルコス(芳通)	一一〇
	『融通念仏縁起』と融通念佛宗		
	念仏獨湛の研究——獨湛の法然観について——		

22	日蓮『注法華經』における『授決集』注記の特性について……………	関戸堯海……………	一一四
23	日蓮遺文の真偽問題に対する一考察——「日女御前御返事偽書説」批判——……………	山崎斎明……………	一二一
24	慶林坊日隆における「法度」について……………	小西顕龍……………	一二五
25	『日蓮大聖人御伝記』（延宝九年・一六八一年刊行）の考察……………	小林正博……………	一二九
26	近代日蓮宗における本末体制再編に関する一考察……………	安中尚史……………	一三四
27	江戸時代における『金七十論』研究——発展への一要因——……………	興津香織……………	一四一
28	駒澤大学図書館蔵『類題法文和歌集注解』とその「尼」の項に見る 畑中多忠の尼僧観……………	海老澤早苗……………	一四五
29	真宗障害者福祉の実践試論——「ピア・カウンセリング」を手がかりとして——……………	頼尊恒信……………	一五〇
30	バーチャル巡礼——法然上人二十五霊場巡拝の一形態——……………	山本博子……………	一五四
31	大谷大学所蔵高麗版大藏經について……………	馬場久幸……………	一五九
32	雲默撰『釈迦如来行跡頌』に見られる天台教判についての一考察……………	朴昭映……………	一六四
33	南北朝仏教における法華一乗思想の受容——光宅寺法雲を中心に——……………	早川貴司……………	一六九
34	北朝石刻にみる「観世音仏」信仰……………	倉本尚徳……………	一七五
35	隋の暦学者袁充とその周辺——仁寿年間における舍利塔建立の一背景——……………	今西智久……………	一七九
36	周顒による二諦の理解について……………	藤野泰二……………	一八三
37	智顗における四悉檀の意……………	柏倉明裕……………	一八七
38	天台大師の十乘観法に関する考察——『観心論疏』との比較を通して——……………	村上明也……………	一九一
39	湛然述『金剛鐔』の対破者をめぐる一試論……………	長倉信祐……………	一九五
40	宋初天台における使帖の意義……………	林 鳴宇……………	一九九
41	智旭『金剛經破空論』における「応如是生清浄心」の解釈について……………	篠田昌宜……………	二〇四
42	『論註』における聞名思想と仏身論の關係考……………	田中無量……………	二〇八
43	『安樂集』における他力の一考察……………	野村淳爾……………	二二二
44	善導『観經疏』所説の「戒」について……………	柴田泰山……………	二二六
45	元照における諸種の往生行——信願行三法具足説を中心に——……………	吉水岳彦……………	二三二

46	中国仏教における臨終行儀の検討……………	顧希珍……………二二六
47	北宗内部に於ける対立——思想的差異に関する考察を中心に——……………	瀧瀬尚純……………二二〇
48	『伝光録』と『林間録』の関係性について……………	
	——永嘉玄覺・黄檗希運の嗣法にまつわる記述より——……………	宮地清彦……………二二六
49	宗密教学における「知」の概念と論理……………	胡建明……………二四一
50	中国唯識における聞熏習説について……………	吉村誠……………二四六
51	基撰『大乘阿毘達磨雜集論述記』の成立と思想……………	
	——仏身に関する記述を中心として——……………	林香奈……………二五二
52	中国唐代における法華道場について……………	小林順彦……………二五六
53	中国仏教における護国思想の受容過程について……………	水野莊平……………二六一
54	『華嚴経』における諸仏と世界……………	周夏……………二六七
55	唯識における柔軟心義……………	寺尾健吾……………二七二
	第六十回学術大会記事……………	二七六
	学術大会開催予告……………	二八六
	情報提供のお願い……………	二八八
	研究発表および論文掲載・利用に関する規則……………	二八九
	学会誌編集査読委員会規則……………	二九〇
	会則・役員名簿……………	二九四
56	ajagaraparvanにおける反宿命論——Mahābhārata 3.173-78の一考察——……………	井上信生……………三〇二
57	古代インド医学における精神障害 (umāda)……………	吉次通泰……………三〇六
58	ヒンドゥー教にみる方角——プラーナ文献を中心として——……………	引田弘道……………三二三
59	放浪者の言語——チャリヤーパダの過去形——……………	北田信……………三二七
60	タミルの聖徒列伝『ティルットンダル・プラーナム』とナーヤナールの問題(序)……………	山下博司……………三二四
61	Yogabhāṣyaにおけるvaśanā——saṃskāraとの比較を中心として——……………	金菱哲宏……………三三八

62	インド哲学に於ける無知（無明， <i>avidyā</i> ）の果報に関する一考察 —— シャンカラによる用例を中心として ——	加藤 龍興	三三四
63	『ニヤーヤ・マンジャリー』写本の欄外注について	室屋 安孝	三三八
64	イランの仏教遺跡……	入 澤 崇	三四六
65	パリー資料にみられる <i>Bhesajja</i> ……	井 上 綾 瀬	三五〇
66	仏教の出家者が遵守すべき <i>kriyākāra</i> ……	生 野 昌 範	三五四
67	三十二大人相の註釈書要素 —— 「大譬喻經註」における足下二輪相と白毫を中心として ——	越後屋正行	三五八
68	マールの変容——死魔から他化自在天へ——	岩 井 昌 悟	三六四
69	仏伝文学におけるパターチャーラー比丘尼の出家物語の位置とその意味	SUMET Supalaset	三六八
70	<i>Lokapadīpakasāra</i> （世間灯明精要）の研究序	CHAITONGDI Phrachatpong	三七二
71	『婆沙論』と『大智度論』……	三友 健 容	三七九
72	『業施設』における煩惱の総称語 ……	青 原 令 知	三八五
73	アビダルマ仏教における三無漏根 ……	齋 藤 滋	三九〇
74	『妙法蓮華經』の言辭（ <i>nirukti</i> ）（二） —— 『妙法蓮華經』第二方便品冒頭「言辭」（ <i>nirukti</i> ）による展開 ——	眞 野 龍 海	三九四
75	〈無量壽經〉誓願文と釈迦の菩薩行——説一切有部説の痕跡——	中御門 敬 教	三九九
76	『阿闍仏国經』と『維摩經』の一考察 ……	西 野 翠	四〇五
77	偈頌から見た支謙訳『維摩詰經』の特徴について	岩 松 浅 夫	四一三
78	『宝性論』における <i>dharma-kāya</i> の語義について —— 果・因・縁としての法身 ——	SRISETTHAWORAKUL Suchada	四一七
79	チャンドラキールティの仏身論 ……	太 田 路 子	四二二
80	<i>Kamalaśīla</i> の了解釈 ……	計 良 龍 成	四二八
81	アティシャの二諦説再考 ……	宮 崎 泉	四三三
82	境識俱泯と唯識無境—— <i>Dvaya-bhāva</i> と <i>Tasya pūrveṇa sadā rahitā</i> ——	北 野 新 太 郎	四三九

83	初期唯識思想と独我論——安慧と『成唯識論』——	源重浩	四四四
84	『中辺分別論』安慧釈における所知障についての一考察	松下俊英	四四八
85	『集量論』I 9 解釈の問題点——デイグナーガとジネーンドラブッディ——	片岡啓	四五五
86	註釈書に見られる <i>Pramāṇavārtikasvayrti</i> 異読情報について	岡田憲尚	四五九
87	「いき」の構造のアポーハ論的構造	上田昇	四六七
88	<i>Trailokyavijayamahākāparājā</i> に於ける金剛薩埵について	中塚浩子	四七一
89	インド後期仏教密教における『マハーマーヤー・タントラ』の位置と性格 ——仏教タントラ形成の諸相——	大観慈聖	四七五
90	パタムパ・サンゲの遺誠について	西岡祖秀	四八三
91	プトウンのガナチャクラ儀軌『大楽遊戯』について	静春樹	四八八
92	ロンチェンパにおける9乗の思想	安田章紀	四九二
93	『大乘四論玄義記』における前代教学の批判——「三乗義」を中心として——	菅野博史	五〇一
94	鮮演の性具善惡説	張文博	五〇八
95	『摩訶止観』病患境の研究 中国医学からの一考察——経穴③——	渡邊幸江	五二二
96	雲南の密教と『幻化網タントラ』	川崎一洋	五二八
97	『釈摩訶衍論開解鈔』における頼瑜の根本摩訶衍解釈	豊嶋悠吾	五三二
98	親鸞の死と「還浄」	沖和史	五三〇
99	『縮刷遺文』の本文整定について	前川健一	五三六
100	近代日本仏教における異文化情報の受容と発信 ——青木文教撮影チベット写真資料を中心に——	高本康子	五四一
101	医療臨床における僧侶の役割についての一試論	打本弘祐	五四七
102	井上信一氏における仏教経済学の構築について	辻井清吾	五五二
103	「カメの空中飛行」の書承と口承——梁麗玲博士の所論に触発されて——	松村恒	五六〇